

講義コード	3A017021
講義名	スポーツリハビリテーション実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2621
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕
 内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

リハビリテーション関連科目の講義で学んで得た知識を対象者に指導／実践を行えるようになること。

到達目標

傷害発生時点から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションのプログラミングやその実施を実践応用する。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックリハビリテーションの考え方
2. 運動療法の基礎知識
3. 物理療法の基礎知識
4. 補装具の使用に関する基礎知識
5. 外傷毎のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践
6. 競技種目特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング

成績の評価

実習への取り組み度、デイリーレポート、発表・プレゼンテーションなどを総合して評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。特に現場実習発表会は成績の大部分を代替している部分でもあるので欠席は大幅な減点とする。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため、受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。

テキスト

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨（日本スポーツ協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

4号館7階D719研究室、nakao@kansai.ac.jp（中尾）

4号館7階D719研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp（吉田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	3A022021
講義名	スポーツ現場実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2620
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕
 内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

主に『予防とコンディショニング』で学んだ知識を現場に於いて実践応用すること。

到達目標

競技活動に於いて対象者が高いパフォーマンスを発揮できるように様々なコンディショニングの方法を実践できるようにする。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングの把握と管理
2. コンディショニングの方法
3. コンディショニングの実際
4. 競技種目特性とコンディショニング
5. 傷害予防に必要な環境整備

成績の評価

実習への取り組み度、デイリーレポート、発表・プレゼンテーションなどを総合して評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。特に現場実習発表会は成績の大部分を代替している部分でもあるので欠席は大幅な減点とする。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため、受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。

テキスト

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレー

ナー専門テキスト①～⑨（日本スポーツ協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

4号館7階D719研究室、nakao@kansai.ac.jp（中尾）

4号館7階D719研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp（吉田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	3A031011
講義名	フィットネス実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2717
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太〔健康運動指導士〕

目的

トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動（ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など）を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後に必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学修することを目的とする。

到達目標

健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。
健康運動の指導をすることができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と実際
2. ウォーキングの実践①
3. ウォーキングの実践②
4. ジョギングの実践①
5. ジョギングの実践②
6. 全身持久力のトレーニング（ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践を含む）
7. 全身持久力のトレーニング
8. 筋力・筋持久力のトレーニング
9. 筋力・筋持久力のトレーニング
10. 柔軟性系のトレーニング
11. 調整力系のトレーニング
12. 子供のフィットネスプログラム
13. 壮年（中年）のフィットネスプログラム
14. 高齢者のフィットネスプログラム
15. 女性のフィットネスプログラム 障害者のフィットネスプログラム

成績の評価

レポート50% 実技試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」の認定科目となっている。
健康運動実践指導者を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康体力づくり事業財団）

オフィスアワー

木曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階 313研究室
aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A039011
講義名	リハビリテーション各論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也〔理学療法士、アスレティックトレーナー〕、鈴木 俊明〔理学療法士〕

目的

各疾患の病態の理解、各疾患に対するリハビリテーションの目的と方法についての基礎的知識を深めることを目的とする。

到達目標

テキストに書かれている内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 脳卒中の基本的概念（鈴木）
2. 脳卒中の理学療法（鈴木）
3. パーキンソン病の基本的概念（鈴木）
4. 脳卒中・パーキンソンのリハビリテーション（中尾）
5. 脊髄損傷の基本的概念（中尾）
6. 脊髄損傷のリハビリテーション（中尾）
7. 切断の基本的概念（中尾）
8. 切断のリハビリテーション（中尾）
9. 脳性麻痺の基本的概念（中尾）
10. 脳性麻痺のリハビリテーション（中尾）
11. 骨関節疾患のリハビリテーション（中尾）
12. 呼吸器疾患の基本的概念（中尾）
13. 呼吸器疾患のリハビリテーション（中尾）
14. 心疾患の基本的概念とリハビリテーション（中尾）
15. 末梢神経障害・スポーツ傷害のリハビリテーション（中尾）

成績の評価

定期試験により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験後に模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー」を受験する学生は、当科目を履修しなけ

ればならない。

テキスト

「リハビリテーション医学」(医歯薬出版)

オフィスアワー

月から木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719研究室 nakao@kansai.ac.jp (中尾)

講義コード	3A048011
講義名	医学推計学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2702
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山本 博司

目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。
自ら研究するためだけではなく、医学論文を読み、理解し、日常の臨床に活かしていくために必要なのである。
ここでは、単なる医学推計学に終わらず、その周辺の学問、疫学、EBM（根拠に基づいた医学）などを理解し、科学的思考ができるようにする。

到達目標

医学関連論文を正しく理解し、その内容を評価できるようになる。
また、自分の臨床治療の基礎知識として活用できる。

授業計画表

授業計画

1. 医学の基礎（医学とは）
2. 医学の方法（医学が用いる手法）
3. 医学推計学の基礎（すべての現象を数値化する）
4. 代表値
5. 標準偏差
6. 分布（正規分布）
7. 仮説検定：偶然に起こる確率を調べる。
8. 2群の比較：ランダム化比較試験（RCT）
9. 対応のない検定①（F検定）
10. 対応のない検定②
11. 対応のあるt検定③
12. t検定の応用
13. その他の検定
14. 筆記試験
15. 総括

成績の評価

授業時間の試験で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント配布

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日・水曜日 (12:15~13:00) 、前もって予約されれば可能な限り対応する。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 312研究室・yamamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A049011
講義名	医事法規
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 組口 庄司	指定なし

目的

医事法規は多岐にわたるが、昨今の社会的な状況を踏まえつつ各分野の法の意義を知識として身につけることを目標とする。

到達目標

医事法規の基本的な理念と実務面で、医療者として必要不可欠な法的知識を習得すること。

授業計画表

授業計画

1. 法学の基本
2. 医事法規とは、医事法学の機能
3. 医事衛生行政法の沿革
4. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」と免許の要件等
5. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」と業務、その他の事項
6. 関係法規① 医療法とは
7. 関係法規② 地域医療とは
8. 関係法規③ 地域医療計画
9. 関係法規④医療関係従事者と諸法規
10. 医療過誤と裁判、判例、医療過誤とリスクマネジメント
11. 衛生関係法規 諸法規、地域保健法と社会福祉等の関連について
12. 社会福祉・社会保険関係法規
13. 生命倫理と法① インフォームド・コンセント
14. 生命倫理と法② 自己決定権、告知
15. 生命倫理と法③ 判例

成績の評価

定期試験、レポート評価等を総合評価する。（試験80%、レポート20%）

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。法律の学びには幅広い一般常識の涵養が大事。新聞を問題意識を持って読むこと。

履修上の注意

各法規の目的、意義を踏まえ、それぞれの法の社会的な役割を理解していくこと。

テキスト

「関係法規」（医歯薬出版）

参考資料

関係六法 例えば

「実務衛生行政六法」 (新日本法規)

「医療の法律学」 (有斐閣)

「医事法入門」 (有斐閣)

「医療と法を考える」 (有斐閣)

講義コード	3A067021
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南澤 佑樹	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（前期）杉山 真央
（後期）南澤 佑樹

目的

本授業では、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングといった英語の基本的な技能を総合的に伸ばしていくことを目的とする。また授業内では、現代社会に関する様々なトピックを取り上げ、日本とは異なる文化に対する関心を高めることを目指す。

※授業内容の理解に応じて授業の進度・内容が変更になる場合がある。

到達目標

1. 小説内で取り上げられている語や表現を身につける。
2. 簡単な内容の小説を、辞書を用いて読むことができるようになる。
3. 簡単な英語を聞いて理解することができるようになる。
4. 自身の興味・関心のある事柄などについて、簡単な英語を用いて分かりやすく伝えることができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション（成績評価・授業の進め方など）
2. くまのプーさんの背景と世界観
3. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One①
4. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One②
5. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One③
6. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One④
7. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One⑤
8. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One⑥
9. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One⑦
10. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One⑧
11. In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One⑨
12. 中間考査・まとめ
13. グループプレゼンテーションの検討
14. グループプレゼンテーションの準備
15. グループプレゼンテーションの発表
16. オリエンテーション（成績評価・授業の進め方など）
17. The Last Leaf①
18. / The Last Leaf

小テスト ②

19. 小テスト / The Last Leaf③

20. 小テスト / The Last Leaf④

21. 小テスト / The Last Leaf⑤

22. 小テスト / グループ・ワーク①

23. グループ・ワーク②

24. The Last Leaf⑥

25. 小テスト / The Last Leaf⑦

26. 小テスト / The Last Leaf⑧

27. 小テスト / プレゼンテーションの構造

28. グループプレゼンテーション準備①

29. グループプレゼンテーション準備②

30. グループプレゼンテーション

成績の評価

小テスト：20% / グループワーク：15% / プレゼンテーション：30% / 授業への参加度：35%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験やプレゼンテーションの後、全体の評価と解答例を提示する予定です。

自己学習

- ・授業内で学習した単語やフレーズは次回の授業までに覚えてくること。
- ・翌週の学習範囲を通読し、意味の分からない単語やフレーズがあれば事前に調べておくこと。

履修上の注意

授業の最初に単語や重要表現に関する小テストを行うので、毎週の予習・復習が求められる。

テキスト

「A World of Pooh (くまのプーさん)」(英光社)

それ以外は授業中にプリントを配布する。

参考資料

授業内で紹介する。

「英語で読むオー・ヘンリー傑作短篇集」(IBCパブリッシング)

※こちらのテキストの購入の必要はない。

オフィスアワー

授業の前後に適宜対応する。

研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示する。

講義コード	3A072011
講義名	応急処置実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2716
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

金井 成行(医師)
津田 和志(医師) ・ 畑村 育次(医師) ・ 尾原 弘恭(柔道整復師) ・ 中尾 哲也（理学療法士）

目的

運動中に出現しやすい病態を把握し、その際の一次救命処置・応急処置について習得する。

到達目標

緊急事態に適切に行動できる者を養成する。

授業計画表

授業計画

1. 運動中止の判定
2. 運動中に起こる疾患（外科） 1
3. 運動中に起こる疾患（外科） 2
4. 運動中に起こる疾患（外科） 3
5. 運動中に起こる疾患（内科） 1
6. 運動中に起こる疾患（内科） 2
7. やけど、けいれん、溺水
8. 救急、救助の現況
9. 一次救命処置の手順
10. 心肺蘇生
11. AEDを用いた救命処置
12. 気道異物除去、止血法
13. テーピング 1
14. テーピング 2
15. テーピング 3

【開講日程予定 8月

3日土曜	1-5限	尾原
5日月曜	3-5限	中尾
7日水曜	1-2限	畑村
8日木曜	3-5限	金井
23日金曜	3-4限	津田

ただし、金井、津田は13:30より授業開始

注：突然の変更日程もある。

成績の評価

5人の講師による各20%配分の筆記試験、レポートを行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト（財）」（健康・体力づくり事業団）

オフィスアワー

金井：月曜日（12：10～13：10）

津田：木曜日（16：00～17：00診療所にて）出張で留守の時もあるので事前に確認を入れること。

中尾：月曜日～木曜日（12:30～13:00）

畑村：木曜日（13：00～14：30）

尾原：水曜日（13：00～17：00）

研究室・授業用E-mail

研究・診療棟

409研究室kanai@kansai.ac.jp（金井）、405研究室tsudak@kansai.ac.jp（津田）、402研究室i-hatamura@kansai.ac.jp（畑村）、310研究室ohara@kansai.ac.jp（尾原）

4号館

D719研究室（中尾）

講義コード	3A119011
講義名	健康づくり概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2715
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。

到達目標

健康に関する現代社会の問題点を理解する。
健康づくりに有効な運動の知識を深める。
運動プログラムが作れるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識①
- 2.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識②
- 3.健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針①
- 4.健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針②
- 5.健康づくりのためのトレーニングの原則、運動量と運動強度①
- 6.運動量と運動強度②、運動時間、頻度、期間
- 7.健康づくりと運動プログラム作成の基礎①
- 8.健康づくりと運動プログラム作成の基礎②
- 9.ウォーミングアップとクーリングダウン
- 10.有酸素性運動とその効果
- 11.レジスタンス運動とその効果、健康づくりと運動プログラムのまとめ
- 12.健康づくりのための身体の機能①
- 13.健康づくりのための身体の機能②
- 14.健康づくりのための身体の構造、バイオメカニクス
- 15.体力測定と評価

成績の評価

定期試験を70%、小テストを30%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業 コマにつき2コマ（ 分）相当の予習と復習を行うこと。特に前回までに学んだ内容の小テストを行うため、プリントや板書した内容について、十分復習すること。

履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。
遅刻・早退は1/3欠席として計算する。

テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」 （健康・体力づくり事業財団）

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室・igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	3A122011
講義名	健康管理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2714
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津田 和志（医師）

目的

健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。

到達目標

健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく、社会全体に対する問題であることも認識させる。

授業計画表

授業計画

1. 病気、健康、体力の概念(1)
2. 病気、健康、体力の概念(2)
3. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(1)
4. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(2)
5. 高齢化社会の傾向と現状、高齢者の健康管理
6. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(1)
7. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(2)
8. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(3)
9. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(4)
10. 運動による生活習慣病の予防効果(1)
11. 運動による生活習慣病の予防効果(2)
12. 運動による生活習慣病の予防効果(3)
13. 運動前のメディカルチェック
14. 救急時の対応(1)
15. 救急時の対応(2)

成績の評価

前期の試験、出席状況、ならびに授業態度により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき90分相当の予習、復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者の対応科目である。

テキスト

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」
(健康、体力づくり事業財団)
履修希望者は必ずテキストを購入すること。

参考資料

「内科学」(朝倉書店)

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後(内科外来にて15:30頃より)。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 405研究室・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	3A243011
講義名	総合演習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-5002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池藤 仁美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

池藤 仁美、榎田 高士、戸村 多郎、内田 靖之、中吉 隆之、坂口 俊二、鍋田 理恵

目的

本演習は、「キャリア教育科目」に指定されているため、はり師・きゅう師の国家資格を取得する時に必須となる学修を行う。

国家試験対象科目の一部（衛生学・公衆衛生学（医療概論も含む）、解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴学）について、講義および確認テストを行い、4年次の「総合演習Ⅱ」してはり師・きゅう師国家試験対策につなげる。

到達目標

- ・該当科目の国家試験の過去問題を6割以上正解することができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス（池藤）
- 2・3. 東洋医学概論（中吉）
4. 東洋医学概論／経穴学（確認テスト）（池藤）
- 5～7. 衛生・公衆衛生学（医療概論も含む）（榎田）
8. 衛生・公衆衛生学（医療概論も含む）／経穴学（確認テスト）（池藤）
- 9・10. 生理学（内田）
11. 生理学／経穴学（確認テスト）（池藤）
- 12～14. 解剖学（戸村）
15. 解剖学／経穴学（確認テスト）（池藤）

成績の評価

国試模試：15%

国試模試の解説ノート：10%

後期末試験：75%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

予習および復習の内容は、KUHS2 Moodleを活用して、関連科目の国家試験問題の過去問に取り組むこと。

履修上の注意

資料は、適宜紹介する。

テキスト

当該科目の教科書とする。

オフィスアワー

金曜日12:30～13:00（池藤）

空いている時間に対応するので、メール等で事前連絡をすること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 教員室・ikefuji@kansai.ac.jp（池藤）

講義コード	3A268011
講義名	東洋医学各論Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-4105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源〔はり師・きゅう師〕

目的

1年次、2年次に習得した、東洋医学の専門的な基礎知識を集積し、疾病の構造を伝統医学的に病態別分類（弁証論治）する。とくに3年次には、望診、聞診、問診、切診による、身体に発生する疾病と四診との関係性を明らかにする専門的な知識が必要であることから、再度、伝統医学的な基本概念に復習を重ね、「弁証」と「弁病」の関係について、「四診」による診断情報を用いて分析する能力を習得することを講義目的とする。

1. 八綱弁証
2. 病邪弁証
3. 気血弁証
4. 臓腑弁証
5. 経絡弁証

以上の弁証による「証」を決定する症例分析能力を習得する。

到達目標

異なった病因と病機は「弁証」を行う上で重要なカギを握る。本講義では「弁証」と「弁病」の考え方を実践的に取り組むために、具体的な「弁証」・「処方」・「配穴」といった治療概念を育て、症例に対する分析能力を養うことを学習成果の到達目標とし、症例を中心とした試験問題の合格の可否をもって最終単位を認定する。

授業計画表

授業計画

1. 総論 四診と証候分析
2. 頭痛【真頭痛・頭風】
3. 顔面痛【頬痛】、顔面麻痺【口喎】
4. 胸痛【胸痺】、脇痛【脇下痛】
5. 腰下肢痛・坐骨神経痛【脊痛腰似折】
6. 不眠【目不瞑・不寝】
7. 疲労と倦怠【怠惰・体惰】
8. 肩凝り、五十肩【肩痺痛・肩背痺痛】
9. 頸肩腕痛【頸項痛】
10. 上肢痛【肩前臑痛・臂痛】
11. 膝痛【膝中痛・鶴膝風・歴節風】
12. 運動麻痺【癱瘓・痿躄】
13. 歯痛【牙齒痛・齲齒】
14. 鼻閉【鼻塞】、鼻汁【流涕】

- 15.耳鳴り、難聴【耳聾】
- 16.咳嗽【上気】
- 17.喘息【哮喘・喘鳴】
- 18.発熱【畏寒発熱】
- 19.腹痛【胃脘痛】
- 20.悪心と嘔吐【嘔気】
- 21.便秘【脾約】、下痢【泄瀉・濡瀉】
- 22.食欲不振【納呆】
- 23.月経異常【月経紊乱】
- 24.排尿障害【癱閉】
- 25.インポテンツ【陽痿】
- 26.めまい【頭眩・眩暈】
- 27.高血圧【肝風】、低血圧【虚損】
- 28.肥満【肥貴人】、脱毛症【髮墮】
- 29.のぼせと冷え【寒厥・厥逆】
- 30.眼精疲労【目昏】

成績の評価

定期試験90%・レポート10%を最終評価とする。

中間試験を実施した場合には中間テスト40%、定期試験50%、レポート10%とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

1. 弁証の法則性を学習するため、提示した参考資料を用いて中国伝統医学に対する予備知識を高めて置くことで聴講の助けとなります。

2. 授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

1. テキストのみの学習では、十分な知識を得ることが困難なため、参考資料などを用いて学習を進めるとよい。

テキスト

「東洋医学臨床論」（医道の日本社）

参考資料

「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング」第2版(医歯薬出版)

「わかりやすい臨床中医臓腑学」第3版(医歯薬出版)

「わかりやすい臨床中医診断学」第2版(医歯薬出版)

「痛みのマネジメント」(医歯薬出版)

『経筋・経別・奇経診療』(厚生社)

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

面談時には事前にメールで連絡すること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413研究室

E-mail:cai@kansai.ac.jp

講義コード	3A374011
講義名	和漢診療学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2701
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

若山 育郎〔医師・漢方専門医〕

目的

漢方薬についての理解を深める。

到達目標

いろいろな臨床場面での漢方薬の効用について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 漢方の歴史
2. 傷寒論と六経
3. 傷寒論の生薬
4. 傷寒論 太陽病篇
5. 傷寒論 陽明病、少陽病篇
6. 傷寒論 太陰病・少陰病・厥陰病篇
7. 金匱要略の代表的方剤
8. 金匱要略の代表的方剤
9. その他の方剤・・・抑肝散など
10. その他の方剤・・・六君子湯など
11. その他の方剤・・・半夏厚朴湯と香蘇散
12. 症例提示・・・四逆散と起立性調節障害
13. 症例提示・・・人参湯・大建中湯と潰瘍性大腸炎
14. 症例提示・・・当归四逆加呉茱萸生姜湯と強皮症
15. 症例提示・・・八味地黄丸とパーキンソン病

成績の評価

筆記試験またはプレゼンテーションにより評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

火曜・水曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

1号館2階 205研究室
wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	3A393011
講義名	鍼灸診察法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2605
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二 [はり師・きゅう師] ・山崎 寿也 [はり師・きゅう師]

目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸治療に至る過程である医療面接、血圧測定、身体診察などについて習得することを目的とする。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

到達目標

- ・医療面接において関与しながらの観察ができる。
- ・適切に血圧が測定ができ、鍼灸治療による変化が説明できる。
- ・運動器疾患の鑑別、病態把握のための整形外科的徒手検査法や神経学的な診察ができる。

授業計画表

授業計画

1. 本実習のねらいと進め方 / 医療面接とは？
2. 血圧測定の意義と適切な測定法
3. 低周波鍼通電療法の基礎と機器の取り扱い
4. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法①
5. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法②
6. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法③
7. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法④
8. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]⑤
9. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法①
10. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法②
11. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法③
12. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法④
13. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]⑤
14. 模擬治療
15. 模擬治療（OSCEのシミュレーション含む）

成績の評価

医療面接・血圧測定・身体診察法などの客観的臨床能力試験（OSCE）60%・学科（定期・模擬）試験40%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、客観的臨床能力試験（OSCE）の評価表を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

指定せず、資料を配付する。

参考資料

「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」（医道の日本社）

「鍼通電療法テクニック」（医道の日本社）

「新訂 方法としての面接」（医学書院）

オフィスアワー

水曜日12：00～13：00（坂口）

木曜日12：10～13：00（山崎）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

診療・研究棟3階311研究室・yamazaki@kansai.ac.jp（山崎）

講義コード	3A394011
講義名	鍼灸診察法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2606
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二 [はり師・きゅう師] ・鍋田 理恵 [はり師・きゅう師]

目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸診察法Ⅰの内容に加え、東洋医学的な診察法や鍼灸配穴法を習得することを目的とする。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

到達目標

- ・基本的な脈診・舌診・腹診ができる。
- ・医療面接の情報を東洋医学的に理解できる。
- ・鍼灸配穴を考え、治療を組み立てることができる。
- ・模擬治療ができる。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法①
2. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法②
3. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法①
4. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法②
5. 東洋医学的診察法（脈診）
6. 東洋医学的診察法（舌診）
7. 東洋医学的診察法（腹診）
8. 東洋医学的診察法（候背診）
9. 鍼灸配穴（要穴の運用）
10. 経筋治療
11. 鍼灸併用物理療法の概要と機器の取扱い
12. 模擬治療
13. 模擬治療
14. カルテの役割と今後の鍼灸カルテの在り方（症例報告の書き方含む）
15. 附属鍼灸治療所でのオリエンテーション/総復習（OSCEのシミュレーション含む）

成績の評価

医療面接、鍼灸実技の客観的臨床能力試験（OSCE）50%・定期試験40%・レポート課題や小テスト10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後の定期試験答案、客観的臨床能力試験（OSCE）の評価表を開示する。
自己学習
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行う。
テキスト
「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）【第4～8週に使用】 「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）【第9週に使用】 その他の週には、別途資料を配付する。
参考資料
「日本鍼灸の診断学」（メディカルユーコン）
オフィスアワー
水曜日12：00～13：00（坂口） 火～金曜日12：30～13：00（鍋田）
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口） 診療・研究棟4階416研究室・nabeta@kansai.ac.jp（鍋田）

講義コード	3A395011
講義名	鍼灸特殊治療法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2401
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

百合 邦子〔はり師・きゅう師〕
川本 正純〔はり師・きゅう師〕

目的

鍼灸治療の特殊な治療法をいくつか紹介し解説する。授業内容は特殊治療法の理論だけではなく、必要に応じて実技指導も行う。学んだ治療法は実際の臨床においても高い有用性が期待できる。

到達目標

理論を修得し、臨床で実際に使えるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 手部治療法（百合）
2. 良導絡自律神経調整法 ①（外部講師）
3. 良導絡自律神経調整法 ②（外部講師）
4. 知熱感度測定法・皮内鍼 ①（川本）
5. 知熱感度測定法・皮内鍼 ②（川本）
6. 頭皮鍼・髪際鍼療法 ①（百合）
7. 頭皮鍼・髪際鍼療法 ②（百合）
8. 頭皮鍼・髪際鍼療法 ③（百合）
9. 耳介療法（百合）
10. 小児鍼療法（百合）
11. M-Test（経絡テスト） ①（外部講師）
12. M-Test（経絡テスト） ②（外部講師）
13. 灸頭鍼療法 ①（百合）
14. 灸頭鍼療法（その他灸療法） ②（百合）
15. まとめ（百合）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業 コマにつき コマ（ 分）相当の予習と復習を行うこと。授業中に配布したプリント等を熟読し、各自で内容整理に努めておくこと。

履修上の注意

鍼灸治療所での実習を想定して、各週の内容を十分に修得すること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

参考資料

「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂）

「新しい鍼灸臨床入門」（松栄印刷）

オフィスアワー

月曜日12：10～13：00（百合）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室 yuri@kansai.ac.jp（百合）

講義コード	3A402011
講義名	鍼灸臨床実習Ⅱ（神経系）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2603
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 研一〔はり師・きゅう師〕
 谷 万喜子〔はり師・きゅう師〕

目的

この科目は、神経系疾患に対する鍼灸治療実習である。神経系疾患の症状の特徴、鍼灸治療の適・不適の鑑別や鍼灸治療の方法などを講義し、鍼灸臨床に即した治療実習を行う。

到達目標

神経系疾患に対する鍼灸臨床で活かせる、知識と技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛 (p.14-18) (木村)
2. 顔面痛 (p.18-21) (木村)
3. 顔面麻痺 (p.22-25) (木村)
4. 上肢痛 (p.84-87) (木村)
5. 下肢痛 (p.87-91) (木村)
6. 運動麻痺 (上肢) (p.93-98) (木村)
7. 運動麻痺 (下肢) (p.93-98) (木村)
8. 胸痛 (p.48-50) (谷)
9. 不眠 (p.114-116) (谷)
10. 疲労と倦怠 (p.117-119) (谷)
11. 運動麻痺 (脳血管障害) (p.93-98) (谷)
12. 中枢神経疾患 (パーキンソン病・ジストニアなど) (谷)
13. 精神神経疾患 (心身症など) (谷)
14. 老年医学 (p.144-152) (谷)
15. まとめ

※ () 内は、「東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」のページ数

成績の評価

後期定期試験 (70%) ・実習点 (30%) にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) の予習と復習を行なうこと。特に、前もって経穴学、東洋医学概論、解剖学、生理学、病理学、診断学、治療学などの復習をしておくこと。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）
他に適宜プリント配布を行う。

参考資料

「図解 鍼灸療法技術ガイド」（文光堂）
「鍼灸臨床マニュアル」（医歯薬出版）
「臨床医学総論」（医歯薬出版）
「臨床医学各論」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00（木村）

月曜日 12:30～13:00（谷）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室・k.kimura@kansai.ac.jp（木村）

診療・研究棟3階307研究室・tani@kansai.ac.jp（谷）

講義コード	3A428011
講義名	鍼灸臨床実習Ⅰ（運動器系）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2602
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鍋田 理恵〔はり師・きゅう師〕
北川 洋志〔はり師・きゅう師〕

目的

「運動器疼痛」に対する鍼灸治療法を学ぶ目的は二つ。一つは国試対策。もう一つは現代医学よりも優位に立てる唯一の臨床領域(運動器疼痛)の鎮痛技法、考え方を身に付けること。

到達目標

臨床、スポーツ現場で使えるレベルの技術習得を目指す。

授業計画表

授業計画

- 肩こり(肩凝りに関連する諸症状)
- 頸部痛(頸こり、外傷性頸部症候群、寝違い)
- 頸肩腕痛(頸椎症、痺証、スポーツ障害、捻挫)
- 肩関節痛(上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩)
- 肩関節痛(野球肩)
- 上肢痛(胸郭出口症候群)
- 上肢痛(テニス肘、腱・腱鞘炎)
- 上肢疾患復習・e-learning
- 腰下肢痛(筋・筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛)
- 腰下肢痛(坐骨神経痛、梨状筋症候群)
- 股関節痛
- 膝関節痛(ジャンパー膝、オスグッド病)
- 膝関節痛(変形性膝関節症)
- 下腿・足の痛み(コンパートメント症候群、アキレス腱炎、足底腱膜炎、シンスプリント)
- 下肢疾患復習・e-learning

成績の評価

試験80%、基礎技術の到達度および課題提出など20%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。
- 成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

授業内容について、臨床医学総論・各論、解剖学、経穴学、東洋医学概論テキストの対応部分を復習・整理してノートを作成する。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00（事前にメールをすること）

北川：木曜日 12：10～12:40

研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階416研究室 2c@kansai.ac.jp

北川：診療・研究棟3階教員室 kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A429011
講義名	臨床医学Ⅲ（内科系）
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし
教員	小河 健一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 哲哉〔医師〕
小河 健一〔医師〕

目的

「臨床医学Ⅰ（医学総論）」で学んだ西洋医学的知識を基礎とし、内科系各分野の具体的疾患について原因・症状・診断法・治療法について学修する。

到達目標

内科系各分野の疾患に対する知識を集積し、臨床時に的確に対応できる基礎力を身に付ける。

授業計画表

授業計画

1. 感染症①
2. 感染症②
3. 消化管疾患①
4. 消化管疾患②
5. 消化管疾患③
6. 肝・胆・膵疾患①
7. 肝・胆・膵疾患②
8. 呼吸器疾患①
9. 呼吸器疾患②
10. 腎・尿器疾患①
11. 腎・尿器疾患②
12. 内分泌疾患①
13. 内分泌疾患②
14. 代謝・栄養疾患①
15. 代謝・栄養疾患②
16. 心臓弁膜症
17. その他心疾患、冠動脈
18. 動脈、血圧
19. 赤血球、白血球
20. リンパ、出血、脳血管
21. 神経感染
22. 神経腫瘍、変性
23. 認知症、筋運動、末梢神経
- 24.

- 頭痛
- 25. 膠原病
- 26. 小児科、外科
- 27. 外科
- 28. 麻酔科
- 29. 婦人科、皮膚科、眼科
- 30. 耳鼻科、精神科、心療内科

前期15回は小河、後期15回は近藤が担当する。

成績の評価

成績の評価は、前期、後期それぞれで行うのではなく、前期に中間試験50%+後期に定期試験50%を行い、通年100%として成績評価を行う。

再試験は前期・後期それぞれで行うのではなく、通年の成績評価で不合格となった場合に再試験を行う。そのため再試験の範囲は1年分となる。

前期の中間試験および再試験の前期部分は国家試験の形式に準ずる。

後期 4択問題の問題集を講義中に配る。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出題する。(40点満点。)

後期 講義中に小テストなどを行い学修状況を検討することがある。(10点満点。追再試験なし。)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験終了後模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

特に、授業計画の項目はテキストに対応しているため、予習をして臨むこと。授業に関係する基礎分野(解剖学、生理学、生化学など)を復習して授業に臨むこと。

しっかりと復習し、授業で取り上げることができなかった疾患についても自己で整理・理解する。

履修上の注意

開始時から終了時までの間に一度だけ座席についているか否かで出欠を調べます。その際不在であれば、その回は欠席となります。

質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

「臨床医学各論」(医歯薬出版)

参考資料

「内科学書」(中山書店)

小河:「病気がみえるシリーズ」(メディックメディア)

オフィスアワー

近藤:月曜日9:00~12:00

小河:月曜日:12:00-12:45、木曜日:12:00-12:45

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡をお願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 303研究室 kondou0724538409@kansai.ac.jp (近藤)

診療・研究棟3階 309研究室 ogawa@kansai.ac.jp (小河)

講義コード	3A430011
講義名	鍼灸のリスクマネジメント
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-4003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山崎 寿也〔はり師・きゅう師〕

目的

鍼灸治療による有害事象の発生を防止するために万全を期す必要がある。

鍼灸治療における安全基準は必ずしも明らかではないが、この鍼灸のリスクマネジメントでは病院など医療機関の安全管理・感染管理の基準を視野に入れながら講義を行う。

また、過去に報告された鍼灸過誤報告例、有害事象例、日々の臨床で遭遇する可能性のあるインシデント事例等を提示しながら、その問題点を探り、将来鍼灸師として安全に臨床が行えるように危機管理について幅広く学ぶ。

なお、この科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で、「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

到達目標

鍼灸臨床現場で発生する可能性がある有害事象を把握し、その対策を含む危機管理ができる鍼灸師をめざす。

授業計画表

授業計画

1. 鍼灸のリスクマネジメント総論
2. 医療過誤の種類とその防止Ⅰ 気胸
3. 医療過誤の種類とその防止Ⅱ 折鍼
4. 医療過誤の種類とその防止Ⅲ 伏鍼・神経損傷
5. 医療過誤の種類とその防止Ⅳ 施灸における熱傷
6. 医療過誤の種類とその防止Ⅴ ME機器、器具等・設備による過誤
7. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止①：病原微生物・感染症
8. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止②：手洗い・消毒（消毒剤を含む）
9. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止③：施術野の消毒・刺鍼抜鍼時の清潔操作
10. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止④：洗浄・滅菌
11. 鍼灸環境の構築・保持（感染性医療廃棄物処理含む）
12. 鍼灸の適応症・医療機関での鍼灸
13. 医療面接・クレーム対応・医療保険
14. レポートについて
15. 鍼灸院の展開【キャリア支援教育：外部講師による】

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後のレポートを開示する。
自己学習
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
テキスト
「鍼灸医療安全ガイドライン」（医歯薬出版） 「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版）
参考資料
「鍼灸マッサージに於ける医療過誤（現場からの報告）」（三王商事）
オフィスアワー
木曜日 12:10～13:00
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟3F 311研究室・yamazaki@kansai.ac.jp

講義コード	3A431011
講義名	疼痛学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2110
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩 共一〔はり師・きゅう師〕

目的

運動器慢性痛とCRPSに対するトリガー・ポイント療法の効果と治療過程で観察される事象から、既知の痛み理論に収まりきらない「運動器疼痛像」「治療論」が浮び上る。進展途上にある、それら疼痛像と現代医学に勝る鎮痛技術について解説・講義し、運動器疼痛治療のニッチを射程に収めた鍼治療なら未だ生き延びられることを確信して貰うことが目的である。

到達目標

訴えられた痛みが運動器由来か内臓器由来かを判断し、運動器疼痛発生源の所在を割り出すことができる。受容器脱感作の視点で、非器質性疼痛、CRPSに対する適切な治療シナリオを考案できる。

授業計画表

授業計画

1. 元感覚とかなり異質、感作受容器由来の感覚
2. 運動器慢性痛、CRPSの劇痛とムズムズ脚の共通点
3. 運動痛、自発痛、夜間痛から内臓痛を探り出す
4. 受容器感作は慢性痛成立の仕切り線
5. 運動器慢性痛の発生源が複数な訳
6. しびれ感の由来は神経・血管に限定されず
7. 刺激療法が痛み治療に適応する訳
8. 軟・剛複合体を機械I補けと触覚が貫く
9. 刺激療法適応の痛み 1：DN-TOS、坐骨神経痛
10. 同 2：CRPS、Strain
11. 疼痛治療、治療標的の所在とオアシス・シナリオ 1
12. 同 2：機械痛、CRPS発生源の検出ロードマップ
13. 痛みに対する刺激療法のリスク 1：診断時
14. 同 2：治療時
15. まとめ

成績の評価

定期試験80%、授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に答案と取り組み度評価を個人研究室（診療・研究棟 306研究室）にて開示する。

自己学習

授業1コマにつき120分の予習、60分の復習を行うこと。具体的には、次回授業のキーワードを講義の最後に伝えるので、参考文献、インターネットで予め調べる。配布資料、講義だけでは十分に理解できなかった論理構造、用語を調べて再学習し、それを配布プリントに書き足す。

テキスト

配布プリント

参考資料

「慢性痛のサイエンス」(医学書院)、「細胞の異常」(飛鳥新社)

オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A432011
講義名	予防とコンディショニングⅡ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2113
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせて選手へ処方していくか、実践を交えて指導力の向上を目指す。

到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように組み合わせて指導するのか、実践力の獲得を目指す。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングの基礎①
2. コンディショニングの基礎②
3. スタビリティ①
4. スタビリティ②
5. スタビリティ③
6. スタビリティ④
7. ウェイトトレーニング①
8. ウェイトトレーニング②
9. プライオメトリクス①
10. プライオメトリクス②
11. アジリティトレーニング①
12. アジリティトレーニング②
13. サーキットトレーニング①
14. サーキットトレーニング②
15. コーディネーション①
16. コーディネーション②
17. 持久性トレーニング①
18. 持久性トレーニング②
19. ストレッチング①
20. ストレッチング②
21. ストレッチング③
22. ストレッチング④

- 23. 測定・評価の基礎①
- 24. 測定・評価の基礎②
- 25. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）①
- 26. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）②
- 27. 評価①
- 28. 評価②
- 29. 総括①
- 30. 総括②

成績の評価

定期試験80%、講義・実習への取り組み度10%、レポート課題10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

テクニックやスキルは出来るようになることが最大の目的である。これらを追求するために実践的なプレゼンテーションを行なう。人前で話し、実践し、学びを深めていくこと。

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されてる。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。尚、欠席の場合レポート等で代替することがある。

テキスト

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング（日本スポーツ協会）

参考資料

「JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト [実践編]」（大修館書店）

「JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト [実技編]」（大修館書店）

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室・uchida@kansai.ac.jp（内田）

診療・研究棟3階教員室・teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	3A433011
講義名	スポーツ医学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2116
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 服部 祐介	指定なし

目的

スポーツを実施するうえで危険はつきものである。しかし我々はそれらの危険を予測しリスクマネージメントすることで未然に防ぐ努力をする。また万が一発生してしまった疾病や傷害に対しては、迅速かつ適切な救急処置をすることが医療人としてまたスポーツトレーナーとして求められる。ここではあらゆる場面を想定し、それらに対応するための知識から実践までを学ぶ。

到達目標

緊急時に備え一次救命処置を一人で行なうことができる。またスポーツ現場での活動に備え現場での評価、外傷や内科的疾患に対して救急処置が適切にできる。さらに起こりうる危険に対してリスクマネージメントができ、現場における救急体制を整えることができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、救急処置の基礎的知識①
2. 救急処置の基礎的知識②
3. 救急処置の基礎的知識③、緊急時の対応計画と外傷の評価①
4. 緊急時の対応計画と外傷の評価②
5. 緊急時の対応計画と外傷の評価③
6. 外傷時の救急対応①
7. 外傷時の救急対応②
8. 外傷時の救急対応③、緊急時の救命処置①
9. 緊急時の救命処置②
10. 緊急時の救命処置③
11. 内科疾患の救急処置①
12. 内科疾患の救急処置②
13. 内科疾患の救急処置③、現場における救急処置①
14. 現場における救急処置②
15. 現場における救急処置③

成績の評価

定期試験（40%）、レポート（60%）によって評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に事前にテキストを読むこと。

履修上の注意

本科目は、（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。受験対象

となる者については、遅刻・欠席は原則的に認められないので、注意すること。

テキスト

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 救急処置」（日本体育協会）

オフィスアワー

水曜日 8：30～10：30

研究室・授業用E-mail

管理棟2階講師控室

講義コード	3A434011
講義名	スポーツ医学Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2117
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中堀 千香子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師〕

中堀 千香子〔はり師・きゅう師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

スポーツを行うことにより健康を維持、亢進しようとする試みがある。一方競技スポーツを行うために様々な障害が発生する。このようにスポーツと健康には二面性がある。アスリートにみられる急性および慢性的疾患について学び、内科的メディカルチェックに関しての知識を身につける。加齢、性差に伴う生理学的変化、特殊環境化でのスポーツ医学やドーピングコントロールについて学ぶ。本講義では教科書的な内容を理解すると同時に、豊富な事例を示しながらスポーツ現場に即した授業を行う。

到達目標

アスリートに見られる生理学的特性と内臓器官の疾患を理解し、特殊環境や性差、年齢により特に注意が必要な症例について学ぶ。またアスリートの食事計画の考え方、栄養欠陥による問題点を理解する。

授業計画表

授業計画

1. スポーツと循環器系疾患
2. スポーツと呼吸器系疾患
3. スポーツと消化器系疾患
4. スポーツと血液疾患
5. スポーツと腎・泌尿器疾患
6. スポーツと代謝性疾患
7. 特殊環境下のスポーツ医学①高圧・低圧環境
8. 特殊環境下のスポーツ医学②高温・低温環境、時差
9. アスリートにおける病的現象①突然死
10. アスリートにおける病的現象②食物アレルギー
11. 発育期・女性スポーツの注意点
12. ドーピングコントロール
13. アスリートの食事計画/身体組成
14. アスリートの水分補給
15. 栄養欠陥に基づく疾病と対策

成績の評価

前期試験期間中にマークシート形式で試験を行う（日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験の練習も兼ねる）。その他、加対象としての課題等を与える場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

フィードバックは定期試験終了後、希望する学生に解説を行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。授業の内容は各種現場実習の内容ともオーバーラップするので、自発的/積極的に予習と復習を行なうこと。

履修上の注意

本科目は、（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。従って遅刻/欠席は認められておらず、受験が認められなくなるので十分注意すること。

テキスト

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④」（日本スポーツ協会）

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨」（日本スポーツ協会）

講義コード	3A435011
講義名	スポーツリハビリテーションII
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-3007
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 相原 望	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士〕、相原 望〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士〕

目的

様々なスポーツ傷害に対するリハビリテーションのリスクを把握し、競技復帰に向けた検査測定からリハビリテーションプログラムの立案における基礎的知識と技術を深めることを目的とする。

到達目標

テキストに書かれている内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. アスリハの考え方（相原）
2. 運動療法の基礎知識①（相原）
3. 運動療法の基礎知識②（相原）
4. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識①（相原）
5. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識②（相原）
6. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識③（相原）
7. 疾患別アスレティックリハビリテーション① ～体幹（1）～（相原）
8. 疾患別アスレティックリハビリテーション② ～体幹（2）～（相原）
9. 疾患別アスレティックリハビリテーション③ ～体幹（3）～（中尾）
10. 疾患別アスレティックリハビリテーション④ ～上肢（1）～（相原）
11. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑤ ～上肢（2）～（相原）
12. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑥ ～上肢（3）～（中尾）
13. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑦ ～下肢（1）～（相原）
14. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑧ ～下肢（2）～（相原）
15. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑨ ～下肢（3）～（相原）
16. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑩ ～下肢（4）～（相原）
17. 疾患別アスレティックリハビリテーション⑩ ～下肢（5）～（相原）
18. 競技種目における動作特性と体力特性① ～動作・重心・エネルギー供給系～（相原）
19. 競技種目における動作特性と体力特性② ～陸上競技～（相原）
20. 競技種目における動作特性と体力特性③ ～水泳～（中尾）
21. 競技種目における動作特性と体力特性④ ～サッカー～（相原）
22. 競技種目における動作特性と体力特性⑤ ～バスケットボール～（相原）
23. 競技種目における動作特性と体力特性⑥ ～バレーボール～（中尾）
24. 競技種目における動作特性と体力特性⑦ ～ハンドボール～（相原）

- | | |
|------------------------|----------------|
| 25. 競技種目における動作特性と体力特性⑧ | ～野球～（中尾） |
| 26. 競技種目における動作特性と体力特性⑨ | ～ラグビー～（相原） |
| 27. 競技種目における動作特性と体力特性⑩ | ～柔道・レスリング～（相原） |
| 28. 競技種目における動作特性と体力特性⑪ | ～スキー競技～（中尾） |
| 29. 競技種目における動作特性と体力特性⑫ | ～スケート競技～（中尾） |
| 30. まとめ | |

成績の評価

定期試験（60点）と課題レポート（40点）で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験後に模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦ アスレティックリハビリテーション」（日本スポーツ協会）

参考資料

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストブック アスレティックトレーニング」（文光堂）

オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719研究室 nakao@kansai.ac.jp

講義コード	3A436011
講義名	伝統鍼灸学Ⅰ（澤田流）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2402
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 大谷 泰弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大谷 泰弘〔はり・きゅう師〕

目的

「気」は鍼灸医学における最も重要な概念である。伝統的な鍼灸治療では、「気」の働きを指標として病気の診断と治療が行われる。本講義では、臨床において「気」の概念をどのように活用するかを澤田流治療法より学ぶことを目的とする。

到達目標

テキストの「鍼灸真髓」は澤田健(澤田流創始者)の臨床を伝える唯一の書で、日本鍼灸界におけるバイブル的存在でもある。しかし、昭和初期の臨床について語られているため難解なところが多い。

本講義では、今日的な視点から本書を読み解きながら、澤田流鍼灸治療の真髓を学び、将来の臨床において活用できることを目指す。

授業計画表

授業計画

1. 伝統医学と現代医学－診断・治療における相違点
2. 澤田流鍼灸治療のダイジェスト
3. 臓腑について－肝・脾・腎・三焦
4. 経絡について－十二正経と奇経八脈
5. 気について－原気と衛気
6. 診察法について－五行色体表と四診
7. 治療法について－本治法と標治法
8. 澤田流鍼灸道の根本概念
9. 肩凝りと澤田流特効穴
10. 頭痛と澤田流特効穴
11. 寒によって傷められる病証(傷寒)と澤田流特効穴
12. 冷えて痛む病証①(寒痺証と心痺証)と澤田流特効穴
13. 冷えて痛む病証②(疝気と癰聚)と澤田流特効穴
14. その他の痛みと澤田流特効穴
15. 『鍼灸真髓』の読み方－知識を臨床へとつなげるヒントを探す

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(90分)相当の予習と復習を行うこと。

- ①講義で学習した「鍼灸真髓」の箇所は後で全文精読する。
- ②参考文献「鍼灸治療基礎学」で学習内容の補強をする。
- ③参考文献「東洋医学概論」で基礎知識の予習をする。

履修上の注意

参考資料(主にA4サイズ)を随時配布しますので、整理のためのファイルを各自準備して下さい。

テキスト

「鍼灸真髓」(医道の日本社)

参考資料

「鍼灸治療基礎学」(医道の日本社)

「東洋医学概論」(医道の日本社)

オフィスアワー

講義終了後、10分間。

講義コード	3A437011
講義名	トリガーポイント概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2404
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩 共一〔はり師・きゅう師〕

目的

現時点でTP療法の治効は、非器質性疼痛、CRPSの劇痛、姿勢めまい/めまい感等で現代医学に勝る。それはTPが機械受容器もしくは侵害受容器の感作部位であり、先の症状がTP起因の症候群であることを現代医学が知らないからである(鍼灸界も同じだが...)。感作受容器を続けて刺激すれば脱感作することを担保に、TP治療は鎮痛効果を得ている。しかし捜して刺激するには、未完の軟体力学、感覚生理学、集合・位相論の発展と援用が必要なので、技術的には大いなる発展の余地が残る。

本講は上記見解に至った軌跡を根拠を示して理解させ、さらにTPとは本来的には実在する^㉞であり、^㉞体系への位置付け、歴史的/治療的役割について理解させることを目的とする。

到達目標

以下の2点。TPが生物学的に実在する^㉞であり、実在、非実在の^㉞が長年月に渡って果たしてきた役割を医学的に評価する視点を我が物にする。

疼痛学、認知神経・言語科学等の諸科学を援用して解明されたTP実体の特性から、TP刺激が運動器慢性痛、CRPSの劇痛の鎮痛に果たす本質的役割を理解する。

授業計画表

授業計画

1. トラベルは「実在する^㉞」をトリガーポイントと命名、再定義した
2. 黒岩のトリガーポイント1；トラベルは孔穴科学化のキーパーツ
3. 同2；刺激子が決める、発生源認知と同一性認知
4. 同3；トラベルが希求せしTP像
5. 孔穴3千年の科学史：概念上の^㉞が小点でも、実在する^㉞は点にあらず
6. 治療と概念・実体は表裏一体：概念不変なら治効も変わらず
7. 鍼・灸・按、東洋的には不可視の適応
8. 関連痛は痛み限定ではない、身体地図上の錯覚
9. 動的関連痛と静的関連痛
10. TP起因の痛みの8割：運動器慢性痛、頭痛、歯痛
11. 同2割：機械痛、侵害痛との混合痛、CRPSの劇痛
12. 痛み以外の適応：受容器感作症候群の提唱
13. TPを捜す：「探せない」を客観視できずに点とされたTPと^㉞
14. 責任TPを捜す：指標は痛み発生源の固有現象
15. まとめ

成績の評価

定期試験80%、授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に答案と取り組み度評価を個人研究室（診療・研究棟 306研究室）にて開示する。

自己学習

授業1コマにつき120分の予習、60分の復習を行うこと。具体的には授業の最後に次回授業のキーワードを提示するので、参考文献、インターネットで調べる。講義で意味を理解し損ねた用語を予習と同様に調べ、配布プリントに書き込む。

テキスト

配布プリント

参考資料

「MIT認知科学大事典」（協立出版）

「ヒルガードの心理学」（金剛出版）

オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

研究・研究棟 306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A438011
講義名	経穴・臓象学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2405
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川本 正純 [はり師・きゅう師]

目的

3年前期までに学修してきた東洋医学概論・経絡経穴概論を復習し、さらに臓腑の持つ性質とその働き（臓象）及び五行説に基づいた他臓腑との関わり、また経絡・経別・経筋・奇経の各論を学修する。

到達目標

学修した各事項をもとに、古典に記載された症候に対する経穴の選穴理由を弁証できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 臓象について (1)
2. 臓象について (2)
3. 臓象について (3)
4. 臓象と陰陽論・五行説 (1)
5. 臓象と陰陽論・五行説 (2)
6. 臓象と陰陽論・五行説 (3)
7. 是動・所生につて (1)
8. 是動・所生につて (2)
9. 経間関係と臨床応用例 (1)
10. 経間関係と臨床応用例 (2)
11. 常経の要穴の運用方法
12. 経筋・経別・奇経について
13. 奇経の運用方法
14. 素問【刺腰痛篇】の経穴について
15. 胃腸症状への配穴弁証

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

「新版 東洋医学概論」 (医道の日本社)

「新版 経絡経穴概論」 (医道の日本社)

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 302研究室・kawamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A439011
講義名	運動器の触察法
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2609
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田淵 香緒利	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田淵 香緒利〔はり師・きゅう師〕

目的

運動器由来の疼痛への対処はその発生源の探知が必要不可欠である。疼痛の発生源を特定するには運動器の三次元的な位置関係の把握が必要となる。本講義では、重なり合う骨、筋、腱、靭帯の奥深くまで指を押し入れてそれらを触知する方法、直接的な触知が難しい筋の起始、停止部については骨指標を用いてこれを推定し、体表投影する方法について学び、実習する。

到達目標

運動器の体表投影図が描けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 第1回 触察描画の基礎 肩関節の骨構成と骨指標について 肩甲骨の体表投影描画実習
- 第2回 肩甲骨、鎖骨、上腕骨の骨構成と体表投影図描画実習
- 第3回 三角筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第4回 棘上筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第5回 棘下筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第6回 斜角筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第7回 第一回実技テスト
- 第8回 大円筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第9回 小円筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第10回 上腕三頭筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第11回 大胸筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第12回 上腕二頭筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第13回 烏口腕筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第14回 第二回実技テスト
- 第15回 肩甲下筋の触察法と復習

成績の評価

実技テスト(体表投影図の描画)100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートは行わない。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。特に実習範囲の解剖学、運動学を復習・整理すること。

履修上の注意

1. 技術は、基本をとばして最初から「自己流」は巧くなれないばかりか事故も発生し易い。指示通りの施術を心掛けること。
2. 実習内容を反復練習してこそ技術は習得できる。練習時に実習内容を再生できるよう、メモ、ノートをとること
3. 私語は自分は勿論、他者の技術習得を妨害する。制止の指示に従わなければ、退室させることもある。
4. 実習し易い服装にすること。飲食物の持ち込みは禁止

テキスト

「プロメテウス解剖学アトラス－解剖学総論 運動器系第3版」 (医学書院)

参考資料

1. 「骨格筋の形と触察法」 (大峰閣)
2. 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」 (メジカルビュー社)
3. 「触診機能解剖カラーアトラス 下」 (文光堂)

研究室・授業用E-mail

管理棟2階講師控室

講義コード	3A440011
講義名	スポーツ鍼灸治療Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2612
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松浦 穰士〔はり師・きゅう師〕

目的

スポーツ選手、スポーツ愛好家の疲労の回復ならびにスポーツ障害・外傷の予防と治療、回復による競技パフォーマンスの向上を目的とした鍼灸治療の技術を習得する。
また、スポーツ現場で現在活躍する先生に来て頂き、特別講義をしていただく予定です。

到達目標

正確にスポーツ障害の評価を行えること、予防法、応急処置の方法などを一般のスポーツ選手に説明できることを目標とする。そして最終の目標は、その障害に対し鍼灸治療でいかに改善させるかを到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、鍼灸治療の基本
2. 足関節捻挫に対する鍼灸治療
3. 下腿内側（シンスプリント）に対する鍼灸治療
4. 下腿後面（アキレス腱炎）に対する鍼灸治療
5. 特別講義
6. 膝関節部障害に対する鍼灸治療
7. 大腿部の障害に対する鍼灸治療
8. 股関節・殿部の障害に対する鍼灸治療
9. 特別講義
10. 手関節障害に対する鍼灸治療
11. 肘関節障害に対する鍼灸治療
12. 肩関節の障害に対する鍼灸治療
13. 腰部障害に対する鍼灸治療
14. 頸部障害に対する鍼灸治療
15. 本治法の考え方

成績の評価

筆記試験100%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当について、スポーツ障害を理解する上で必要な筋肉・骨・靭帯の解剖や、東洋医学的知識である経絡や経穴（特に要穴）などの予習・復習を行なうこと。

履修上の注意

実習時間は限られているので、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がけること。指示以外の施術はしてはならない。またお互いが被術者になるので、実習部位への鍼灸治療が可能な服装を心掛けること。

テキスト

毎回の講義でプリント配布『医道の日本：私の臨床経穴取穴術13-29回』を配布します。
「スポーツマッサージ」（KATA実技指導員著）

参考資料

「スポーツ東洋療法」（医道の日本社）

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階講師控室

講義コード	3A539011
講義名	スポーツと栄養
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2118
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岡村 浩嗣	指定なし

目的

スポーツにおける食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアができるようにする。また、栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができるようにする。さらに、サプリメントについて理解し、スポーツ栄養士や管理栄養士と連携した栄養ケアができるようにする。

到達目標

1.アスリートにおける栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。2.トレーニングプログラムや競技特性と関連づけた食事のあり方を理解し、日常的な栄養ケアができるようになる。3.栄養欠陥に基づく疾病の知識を学び、その対策を講じることができるようになる。4.合宿・遠征などの特殊環境下における栄養ケアができるようになる。5.サプリメントについて理解し、アスリートに対する管理ができるようになる。6.スポーツ栄養士や管理栄養士との連携ができるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.スポーツ栄養サポートとは
- 2.アスリートの身体組成
- 3.からだ作りとウエイトコントロール
- 4.日本食とスポーツ栄養
- 5.スポーツ栄養と炭水化物・脂質
- 6.スポーツ栄養とたんぱく質
- 7.スポーツ栄養とビタミン・ミネラル
- 8.トレーニングスケジュールと食事
- 9.競技特性と食事
- 10.コンディショニングと栄養摂取
- 11.水分補給・スポーツドリンクの科学
- 12.栄養欠陥に基づく疾病と対策
- 13.特殊環境下における栄養ケア
- 14.サプリメントの利用時の留意点
- 15.アスリートの栄養教育

成績の評価

レポート80%、授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特にテキストを予習しておくこと。

履修上の注意

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーに対応した科目である。
スポーツをする人の栄養・食事について知りたいことや疑問に思うことなどをまとめておき、講義をとおして解決・確認するようにする。

テキスト

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーテキスト」（日本体育協会）